



このと通信

今回は体外受精の採卵時のトラブルについてです。

胚盤胞まで培養したほうが妊娠する可能性は高くなりますか？

●Aさんの場合●
凍結融解胚移植をしましたが、その後、妊娠判定は陰性でした。私の通う病院では胚盤胞移植をすすめていませんが、年齢的にも胚盤胞まで培養して移植するほうがいいのではないかと、転院も考えています。胚盤胞移植のメリットを教えてくださいませんか？

Q・胚盤胞移植のメリットには、どのようなことが挙げられるのでしょうか。
A・まず、胚盤胞とは最終段階にまで育った受精卵です。3日目の胚の状態の1個と胚盤胞の1個では、着床率が全然違います。3日目までは卵のもっている栄養分でそれなりに育つのですが、それ以降は胚の遺伝子などいろいろな影響により、場合によっては胚の発生が止まることもあるのです。つまり、胚盤胞とはさまざまな環境の中から淘汰されて残ったものということになり、着床率もよくなるわけです。また胚盤胞まですれば、着床率が高くなるためにも一つを移植しますので、多胎の予防にもなります。

Q・では、Aさんの場合は胚盤胞移植が望ましいのでしょうか？

A・担当医が胚盤胞移植をすすめないのであれば、胚の状態があまりよくないかもしれないですね。しかし、採卵後2〜3日目胚(分割期胚)の状態がよかったのであれば、次回は胚盤胞移植がよいと思います。Aさんは、データを拝見すると少し太りすぎなので、ウエイトコントロールが重要。皮下脂肪や内臓脂肪が多いと卵質が落ちたり、反応する卵の数も低下してくるのでその改善を。食事療法と運動療法で子宮内膜の受け入れ環境を整えることも大切です。

また胚移植前にアシストハッチングをすることも手段の一つです。授精した胚を子宮内に戻すと、最終的には胚の殻を破って中の胚が子宮内膜に進入して着床するのですが、卵の透明帯が固かったりすると透明帯を破るのに時間がかかり、子宮内膜に進入するタイミングがずれて、着床に至らないことになってしまいます。このため、胚を移植する前に、切れ目を入れて殻を破りやすくサポートします。こうすることで着床の



タイミングが合
い、妊娠
率も上昇
する可能
性があり
ます。

Q・今回の陰性判定で、精神的なダメージも大きいようです。

A・期待をもって治療されて、妊娠判定がマイナスとなり、精神的に落ち込まれるお気持ちはよくわかります。精神的にきつければ、1〜2ヶ月、治療を休むこともよいでしょう。その間に栄養バランスを整えて体作りをすればよいのですから。またステップアップしていくにつれ、妊娠への期待も高まるため、ダメだったときのダメージも大きくなってしまいます。治療の間は不妊治療のことを考えずに趣味を楽しんだり、可能であればカウンセリングを受けつつ、ストレスをできるだけ軽くしていくことも重要です。

**卵子の質が悪く受精せず
自然周期排卵なら
妊娠できますか？**

●Bさんの場合●
タイミング指導、人工授精4回を経て、昨年、体外受精にトライ。採卵2個ですべて受精卵にならず、その後、顕微授精で採卵6個も受精に至らず、受精障害と説明を受けました。卵子に針を刺したとき弾力がなく、質の悪さを告げられてショック。次回は良質卵子が確保できるように自然周期採卵をすすめられていますが、自然周期にすれば受精するのでしょうか？

Q・Bさんのように顕微授精までステップアップしても、なかなか妊娠できないという方もいるのですか？

A・そうですね。Bさんのようなケースは多くはありませんが、なかには原因不明の受精障害で、顕微授精でもうまく結果が出ない方もいらつしやいます。ご主人も検査を6回されて異常がないということですが、精子の状態がよいと診断されても、奥様の卵子と相性が悪くて受精できないケースもあります。

Q・卵子に弾力がないと言われたそうですが、これは年齢的なものからきているのですか？

A・年齢が高い方だけではなく、若い方でも見られることがあります。毎回ではなく、そのときの卵子の状態によって弾力が異なることも……。原因ははっきりと解明されておらず、一概に卵子の質が悪いと言い切れないところもあります。

Q・Bさんは、今まで薬による刺激周期で採卵をしてきて、次回からは自然周期での採卵にトライしてみたいということですが、これにより結果が得られるのでしょうか。

A・薬を使わない自然周期は体にはやさしいのですが、採れる卵子の数は普通一つです。また、低刺激だと子宮の内膜が厚くならない方もいる。逆に刺激が強いと、卵巣が腫れてしまう方もいます。どの方法がよくて妊娠しやすいかは患者さんによって異なります。

Q・では、必ずしも自然周期がベストとは言えないのですか？

A・私の医院の場合は、はじめはクロミフェ

ンを用いた低刺激、次にGnRHアンタゴニスト、その後ロング法と、3つの段階を踏んだ刺激法を実践しています。3つを行っても結果が出ない場合は、その中で一番合っている良い卵が採れた方法で、再度トライしていきます。どの方法でも良い卵が得られない場合、自然周期を選びます。やはり、患者さん個々の体質や、そのときの状況に合わせた刺激法を見極めることが重要です。Bさんも、体も気持ちも仕切り直して、まずは自然周期からチャレンジしていろいろ刺激法を変えてみるのがよいかと思えます。卵子はたくさん採れているのですから、まだまだ妊娠のチャンスはあると思いますよ。

妙泉堂薬局からのアドバイス

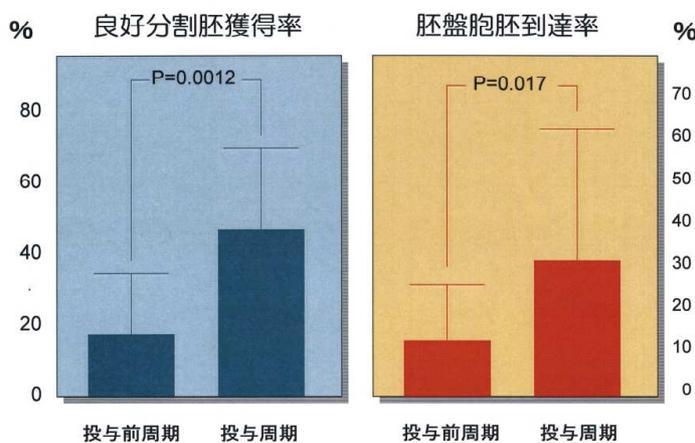
体外受精を受けている方で、何回採卵しても受精卵の質が悪く、移植できない、あるいは移植できても妊娠に至らないというご相談をとても多くいただきます。特に35才以上で初めての妊娠の方に多いようです。

このような場合、中医学では、まず**補腎**（子宮・卵巣の機能回復）と**活血**（腹腔内、特に子宮・卵巣内の血流を良くする）が基本です。そして、体外受精の場合には、直接卵質を上げる処方、**MACH**（販売名**インターパンチS**）の併用をお奨めしています。

MACHは、いくつかの医療機関で使用され、何回採卵しても卵質が悪いために妊娠に至らない女性を対象に、採卵前の3ヶ月間服用後、1回移植時の平均妊娠率86%が34.6%まであがるというデータが出ています。

また、受精卵が成長していく課程の分割卵の中に、どれくらい細胞の破片が混じっているか（分割胚グレード）、その分割卵がどれくらい胚盤胞まで成長するか（胚盤胞到達率）の2点が、妊娠に至る最も重要な因子といわれています。そして分割胚グレードがI、IIの受精卵が胚盤胞まで成長して移植した場合の妊娠率は約60%といわれているのです。MACHはこの両方を改善します。当店でも体外受精のご相談の方に、補腎・活血の漢方薬とMACHを併用していただいています。多くの方が少ない採卵回数で妊娠されています。

MACH投与による胚質の変化



MACHの服用で、良好分割胚の獲得率は17%が48%、胚盤胞到達率は9%が30%に改善されました。

体外受精を検討されている方は、是非お試しください。